

[3] 職業科による実践

(1) 木工コースの実践

① 取り組みについての基本的な考え

木工コースは、社会での「働く場」を常に意識し、自分の分担に責任を持ち、集中し、粘り強く継続して作業に取り組む態度育成をめざして授業をすすめている。遊び感覚での作業態度、自分勝手な判断での作業、他に迷惑をかける言動があれば、そのつど厳しく注意し作業に向かう真剣さを大切にしている。木工コースの生徒は7名で、作業に対し、ある程度の見通しを持って活動できる生徒は1名、時々声かけが必要な生徒が2名いる。一旦作業に入り、作業の手順が分かると、その作業に真面目に取り組むが、報告、質問、返事の声小さく、全般的に主体性に欠ける傾向がある。しかし、どの生徒も、道具を使って物を作る期待感や、作り上げた喜びを知っている。これらの豊かな感性を大切に、粘り強く、こつこつと作業に向かい、物を作り上げる成就感を味わい、併せて、販売できる製品作りを目標にして、程よい緊張感のある授業づくりをめざした。

② ねらい

- a 木材加工の基本的な技能の習得と粘り強い作業態度を養う。
- b 主体的に作業に取り組もうとする意欲を養う。
- c 挨拶、質問、報告、返事等、働く上で必要な、基本的な対応の力を養う。

③ 指導の方針と手だて

- a 集中し、継続して同じ作業を繰り返す。
 - ・工程が細分化できる「額縁」「木鉢」の2点に絞り、通年で製作する。
 - ・1学期は、全員一通りの作業をして、木工作業に慣れるようにする。
 - ・ある程度道具が使えるようになるまで、同じ作業を続ける。
 - ・木工機械を使い、緊張し集中せざるを得ない場面を設定する。
 - ・道具や木工機械を初めて使う喜びや楽しさを大切にして、いろいろなやり方を試し、自分の一番使いやすいやり方で作業をし、定着できるようにする。
- b できなかったことができるようになる新鮮な喜びを体験する。
 - ・よく切れる道具を準備し、切れ味の良さや仕上がりの良さを体験する。
 - ・木工機械を使い、正確な仕上がりと言産のすばらしさを体験する。
 - ・作業工程は固定せず、それぞれが分担する。
 - ・補助具を製作し、正確できれいな仕上がりができるようにする。
 - ・工具の正しい使い方は、手を添えて指導したり、体の位置、腰の落とし方、足の開き方などを加えて指導する。
- c 意図的にやりとりの場を多く設定する。
 - ・一つの作業が完了したら、必ず報告する。
 - ・困った時や迷った時は早めに援助を求めるようにする。
 - ・明らかに、目・手ざわりで確認できるミスは、本人が気づき、報告するまで待ちの姿勢で臨む。
 - ・学習時間の始めと終わりでの、実習室への入退出の挨拶をきちんとする。

- ・始めの会、終わりの会で自分の目標と反省を発表する。

作業工程「木鉢」 切断 ◯ けびき ◯ 組み立て（釘付け） ◯ つりひも用の穴あけ
「額縁」 切断（縁、裏板） ◯ 面取り ◯ 組み立て ◯ トンボのビス締め ◯ 木足つけ

表-5 木工コースの学習の流れ

始めの会(10分)	作業 (110分)	後始末 (10分)	終わりの会 (10分)
<ul style="list-style-type: none"> ・個人目標の発表 ・作業内容の選択 	<ul style="list-style-type: none"> ・額縁の製作 ・木鉢の製作 	<ul style="list-style-type: none"> ・道具の返納 ・整理整頓掃除 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人目標の反省の発表

④ 指導の実際

上記の方針の基に、「自分づくり」の3つの段階から生徒を取り出して、それぞれの段階に応じた支援の具体例を上げてみた。

	目 標	支 援 (具体的な手だて)	評 価
K男 (自我の誕生の段階)	<ul style="list-style-type: none"> ・集中し、身体を力一杯動かして作業をする。 ・できるだけ自分で作業をする。 ・相手に聞こえる声で挨拶・報告・質問をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・額縁の縁の面取りでは、縁を固定する補助具を準備した。面取り鉋の刃の頭に指を添えて引っ張るとききれいに削れる事を手を添えて指導した。 ・木鉢の釘打ちでは、あらかじめ釘を1/4位打っておき、残りを自分で打てるようにした。 ・案内の釘穴をあけて、真っ直ぐ打てるように準備した。 ・大きな声で報告・質問ができた時は、思いきり認めた。 ・実習室への入退出の挨拶が大きな声でできた時、そのつど「とてもよく聞こえました」と評価した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を力一杯動かして切削した。正確な切削はまだできないが、よそみは全くなかった。 ・道具の使用が好きであり、釘打ちの時の音を楽しみながら集中して作業ができるようになった。 ・かなり大きな声で「できました」「教えてください」と言えるようになった。 ・「おはようございます」「お先に失礼します」と大きな声で言えだした。
P男 (自我の誕生の段階)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の判断で作業をせず分からない時は援助を求める。 ・どんな作業にも、自分から進んで取り組む。 ・班長として始めの会の進行をきちんとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・釘抜き作業では、力まかせに抜こうとしても抜けない時、援助を求めるまで手出しは控えた。 ・釘抜きの要領を手を添えて指導し、自分のやり方と比較した。 ・鋸引きではどうしても、鋸の柄を身体に引きつけてしまい、切断面が曲がってしまうので、留めを作業台に斜めに取り付け作業をした。 ・始めの会では、進行内容を書いたマニュアルを準備した。 ・会の進行につまっても、急がせるこ 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の手に余る時、「釘が抜けません」と言って、援助を素直に求めることができるようになった。 ・留めの再取り付けで比較的真っ直ぐ切断できだし、作業が面白くなり、主体的に取り組めるようになった。 ・会の進行につまっても、マニュアルを見て進行する事ができだし、班長として

		とは極力控えた。	の責任を果たそうと努力している。
C 子 (自 我 の 誕 生 の 段 階)	<ul style="list-style-type: none"> • どんな作業にも粘り強く取り組む。 • ミスをしたり、困った時は早めに援助を求める。 • 副班長として、作業の終了の声かけや終わりの会の進行をきちんとする。 	<ul style="list-style-type: none"> • 面取り鉋の面取りでは、①鉋を部材に当てる。②しっかり鉋全体を押しつける。③身体全体で引っ張る。このように要領を区切って説明し、手を添えて指導した。 • 木鉢の釘打ちで、釘が曲がったり、はみ出た時、報告するまで待ちの姿勢で臨んだ。 • 作業終了の目安を、11:45~11:50と決めた。作業が途中の時は、延ばしてもよい事にした。 • 終わりの会では、進行内容を書いたマニュアルを準備した。 	<ul style="list-style-type: none"> • 面取り鉋を、①②③の要領を守って使い、少しずつ上達した。今では、正確な切削ができ、任せられるようになった。 • 始め、自分だけで修正しようとしたが、自分では手に負えない事が分かり早めに報告する事ができた。 • 自分や班員の作業の区切りを考え、「作業を終わらしましょう」「あと5分作業をします」「反省の準備にかかりましょう」と大きな声で言う事ができた。 • マニュアルをほとんど見ないで会の進行をする事ができた。

⑤ 反省と今後の課題

「額縁」は、即売会や福祉展で販売、「木鉢」は、P植物園の受注品であり、丁寧な作業をする意識や、完成期日や予定個数の見通しが持たせやすい題材であった。でき上がった製品は、各自の置き場所に保管し、自分の目で、製作数や出来栄えがいつでも確認できるようにしたり、木鉢に実



木鉢の組み立て作業

際に花を植えたり、額縁に絵や写真を入れて展示し、製作意欲が自然に沸き起こるようにした。また、1学期、一通りの作業を全員が経験したので、2学期からは、その時間の作業を自分で選択する事にした。自分で決めた作業なので、仕上げる責任を感じ、取り組みは明らかに意欲的になった。同じ作業に、数名が希望しても、お互い譲り合う心のゆとりもみられた。

生徒は、少しずつ授業に主体的に関わろうとしてきている。「額縁」「木鉢」を作り上げ、うれしそうに報告する表情に、満足感と自信が伺われるようになった。しかし、挨拶、報告、質問等その日により出来、不出来があり、まだまだ繰り返しの指導が必要である。作業態度も、安易な方向に流れやすい生徒がみられ、一層の支援の工夫と題材の選定の工夫をしなければならない。今後とも、その生徒一人ひとりの特性に基づいた支援の方法を実践を繰り返しながら求めていきたい。

(川本)

(2) 陶芸コースの実践

① 取り組みについての基本的な考え

陶芸は、粘土という直接手に触れることができ、比較的自由に扱うことのできる可塑性の高い素材を使って、作業するところに特徴がある。そのため、生徒たちは失敗を恐れず、思いきって作品作りに取り組むことができる。作った製品は学習発表会での即売会や、大丸での福祉展で販売することを生徒に知らせ、商品価値のある作品を量産することを目標として、取り組ませたいと考える。

陶芸コースは、1年生2名、2年生1名、3年生3名の計6名で編成されている。3名は指示を理解し、自分なりの見通しを持って時間いっぱい作業に取り組める。2名はその時々具体的な指示をすればそれなりに作業に取り組めるが、量産を目標とする製品については、商品価値が落ちる。1名は、指導者が絶えず声をかけたり、手を添えたりすることで作業意欲が持続し、自分なりの作品を作ることができる。このように生徒の実態はさまざまであるが、個に応じた支援をすることで製作活動に楽しく取り組ませ、一人ひとりが目標を持って、根気強く作業する態度を育てていきたい。

② ねらい

- ・自分なりに、ある程度の見通しを持ちながら、根気強く取り組む姿勢を育てる。
- ・自分で作りたいものを決め、良い作品を作ろうとする意欲を高める。
- ・挨拶、報告、返事等をきちんとし、習慣化を図る。
- ・型抜き、成型、薬かけ等の基本的な技能を身につける。
- ・物を大切に扱う気持ちや、安全を意識して作業する態度を育てる。

③ 指導の方針と手だて

- ・製品が完成するまでには、作品作り ▶ 乾燥 ▶ ペーパーがけ ▶ 素焼き ▶ ペーパーがけ ▶ わ薬かけ ▶ 本焼きと、長い過程を通る。生徒が見通しを持って作業に取り組めるように、具体的な工程表を掲示し、個々に応じて全体の流れがつかめるようにする。
- ・毎時間自分なりの目標を決め、その目標を反省する時間を設定することで、学習に主体的に取り組めるようにする。
- ・作った作品を売れるかどうかという観点で見つめさせ、作品の良否を意識して作るようにする。
- ・型抜きで作る量産を目標とした作業とともに、手作りで自分の作りたい独創的な作品を作る時間も保障し学習に変化がでるようにする。
- ・入室や退室の挨拶、作品ができた時の報告、指示がわからない時の質問など、その時々をとらえて声かけなどをする。
- ・道具の扱い方は示範したり手を添えたりして、正しく理解できるようにする。
- ・生徒の発達段階を大切にし、グルーピングや題材の与え方に配慮する。



素焼きにペーパーをかけるH男

④ 指導の実際

a 年間指導計画

表-6 年問題材配当

月	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月
題 材	湯飲み茶わん						
	花びん						
	小鉢						
月	12月	1月	2月	3月			
題 材	花びん			自由作品			
	小鉢						
	箸置き						



釉薬を混ぜるR男

- ・11月には学習発表会のバザー、2月には児童福祉展の即売会があり、事前準備にも時間を取る。
- ・年間3回の本焼きには生徒を関わらせ、完成の喜びが味わえるようにする。
- ・自由作品作りを適宜入れていく。

b 学習の流れ (140分間)

表-7 学習の流れ

10分	10分	95分	15分	10分
準備	はじめの会	作業	後始末	終わりの会
<ul style="list-style-type: none"> ・身じたく ・自分の目標を決める 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標発表 ・本時の予定を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・型抜きや自動彫刻機 手作りによる制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・使った道具の始末 ・部屋の掃除 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標の反省の発表 ・次時の予定を聞く

- ・準備は全員の自主活動、初めと終わりの会、後始末は班長が進行する。
- ・集合から終了まで、時間厳守を意識して行動する。

c 実践例

次に、発達段階の異なるH男・R男・E子を取りあげ、指導の様子を述べたい。

	目標	支援 (具体的な手だて)	生徒の様子と評価
H男 (自己客観)	作業に見通しを持ち、ていねいさや量産を意識して製品作りをする。(湯飲み茶わん)	<ul style="list-style-type: none"> ・作った作品は即売会で販売する製品であることを強調し、見通しと意欲が持てるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いいのを作らんといけませんね。買った人が困るから」と、お客さんに、買ってもらう製品作りに取り組む意欲が感じられた。

視の段階		<ul style="list-style-type: none"> 湯飲み茶わんは、飲み口にあたる部分を指で触って、厚さやざらつきが確かめられるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 見た目にはざらつきがなくても、触れてみるとざらつきがあることに気づき、飲み口の仕上げをていねいにしようとした。
E子の（自制心の芽生えの段階）	<p>作業の手順を聞きながら、根気よくていねいに作品を作る。 （花びん）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 花びん作りの工程を一つずつ示範しながら説明し、さらに手を添えて一緒に作ることで理解しやすくした。 「ギュッギュ」「トントンといった声かけや「手元を見て」という声かけをして励ました。 	<ul style="list-style-type: none"> 取り組む前に「私にはわかりません。できません」と、自信がないことをアピールしたが一緒に作るうちにできそうだという見通しができ「やってみます」と言って取り組んだ。 リズムカルな言葉をかけると、自分も口にしたが楽しそうに手を動かした。変化のある声かけが効果的だった。
R男（自我の拡大充実の段階）	<p>少しは用途を意識し、手順に沿って最後まで作品を作る。 （自由作品）</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品棚に飾ってあるいろいろな作品を参考にすることで、自分が作りたいもののイメージを描きやすくした。 巧緻性をあまり必要とせず偶発性のおもしろさが期待できる作品に、目を向けるようにした。 絶えず「いいのができそうだね」とか「誰に見せてあげようか」といった期待感を高める声かけを続け、意欲の持続を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 「何を作ろうかなあ」と思いをめぐらすことを楽しんだ後、指導者のアドバイスで皿を作ることに決めた。粘土のかたまりを手や板でたたいて延ばし、周りを少し立ち上がらせて完成させる簡単な方法に、没頭して取り組んだ。体（力）や道具を使う活動が、R男の意欲を沸き立たせた。

⑤ 反省と今後の課題

販売する作品を作るという目標を明確に持つことは、生徒の製作意欲を高め、良い作品を作るための技能や態度を育てるために効果的である。しかし量産をめざして画一的な作品を作り続けると、生徒の意欲は減退してくる。2学期の後半に、作る作品を自分で選択の場を与え、手作りの良さが生かせる新しい作品を提示したところ、生徒は目を輝かせて取り組んだ。今後も、生徒の思いが生かせる授業づくりを、追求していきたい。（小杉）